

職員研修 報告書・レポート

平成 30 年 11 月 18 日 (日)

氏名： 末永 浩之

① 研修名： Office 夢風舎 土屋 徹氏 SST 研修「精神・発達障がいのある方への相談のポイント&プチ相談から問題解決相談の技法」

② 研修内容：面談における面接技法研修。

(1) 講義：精神・発達障がいのある方への相談のポイント

相談に来る人はどのような悩みや課題・困難を抱えて来所するのかを目的として、最初の接し方や声のかけ方、相談者のエンパワーメントの引きだし方、表情・面談時間等について講義を受けた。

(2) 演習：プチ相談から問題解決相談の技法

9グループに分かれワークショップを実施した。

ア 自己紹介、他己紹介、インタビュー、面接の初めの一步をテーマに演習を行った。

自己紹介にて自分の良いところを話すと非常に恥ずかしいと誰もが認識されていた。インタビューにおいて他人からの紹介は、非常に分かりやすく伝えられ解りやすく伝えていた。

イ 相談体験では、相談する者及び相談される者に立場に立ち演習を行った。何に困っているのか、どのようなことを解決して欲しいのかに焦点をあて面接場面を設定して演習を行った。

ウ 構造化面接として、文字や図を活用して図式化して相談シートに基づいて相談、支援内容、支援方法、解決へのヒントを参考に相談者がどのようにしたら解決できるかの方策、導き方を学んだ。

③ 成果/感想 ④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

障がい福祉分野での相談支援は、萬相談に近いものである。困っている人悩んでいる人はなぜ相談に来るかということ、未来へのワクワク、希望に向かって「何かをしようとしている」「何か取り組みたい」があるからである。そのためには計画が必要であるが、その計画に相談者自身の強み（ストレングス）に焦点を当てることによって見方が変わり、自分の持っている力に気付くことができることが分った。よって「心の整理術」を行うことが求められている。

演習では、各々の悩みや相談内容を基に相談者・面談者に分かれロールプレイを行ったが、構造化した相談では相談シートに沿って進めると解決に結びついた。これは、相手と交換しても同様の結果となったことから、このツールは今後の支援について非常に有用であり、活用していく必要があると認識いたしました。

本研修にて、あともう1時間あれば実際の支援事例を紹介いただけたらとのことであったが時間の都合上、ご講義頂けなかったことから、次回土屋先生がご来所いただいた際は、是非活用事例を拝見したいと思いをいたしました。